

平成 26 年度 第 1 回行政改革推進委員会会議録（要旨）

平成 26 年 6 月 10 日 13 : 30～15 : 30

市役所東館 4 階第 2 会議室

※委員委嘱

●市長あいさつ

本日は、お忙しい中、行政改革推進委員会にご出席をいただき、誠にありがとうございます。委員の皆さまには、本市行財政改革の推進に向け、格別のご協力をいただきますことについて、厚くお礼申し上げます。

本市ではこれまでに職員の削減を行うなど、行革の取組みをおこなってきました。地方分権や権限委譲が言われるようになってから 10 年程が経ち、仕事を減らさなければいけないが、サービスの受け手の顔が見えると当事者としては減らしにくい部分があります。本日は、新しい行財政改革指針についてご協議いただくということですが、忌憚のないご意見をお聞かせいただきたいと思っております。委員会からいただきましたご意見をもとに、改革に取り組んでまいりますので、皆様のご支援、ご協力をお願いします。

※市長退席

※委員及び事務局紹介

※会長選出 筒井委員

※職務代理者決定 藤井委員

●事務局

※委員会の役割について説明

行財政改革指針（仮称）の策定においてご意見をいただき、意見書を持って指針に対する答申としたいと考えています。

※スケジュール説明

指針は、8 月に議会への報告を予定しています。7 月末までに 4 回程度の会議を開催し、意見書を作成する流れでお願いしたいと思います。

※以降進行は会長へ

■会長

委員会運営について決めたいと思います。

まず、公開、非公開についてどうするか。ガイドラインはありますか。

●事務局

「伊勢市審議会等の設置及び運営に関する指針」において、公正の確保と透明性の向上を図る観点から原則公開としています。

■会長

原則公開ということですが異議はありませんか。

※異議なし

公開とし傍聴可能とします。

■会長

会議録の作成について、発言者の氏名を明記しますか、「委員」等の表記にしますか。

※委員等の表記にすることで異議なし

■会長

会議録の内容について、一言一句文字に起こすのか、概要を記録することとしますか。

●事務局

事務局としてはどちらでも対応できますが、読みやすさの点からいうと、発言の要点を記載した概要の方が適しているのではないかと思います。

■会長

量が多過ぎると読む側も大変なので、概要を作成することでよいですか。

※異議なし

■会長

会議の進め方については、本日の第1回目はざっくりばらんに伊勢市の行財政改革について話し合い、そこで出た意見や市の考え方を含めて事務局が指針の原案を作成し、2回目以降にそれを審議していきたいと思います。

※異議なし

●事務局

指針（仮称）の骨子について提案を説明します。指針は、行財政改革の方向性を示すものであり、その骨子案は第二次行財政改革大綱の理念を受け継ぎ作成しました。行財政改革の最終的な目標に「住民満足度の向上」を掲げていま

す。また、社会経済環境の変化に柔軟に対応し、今後も持続可能な自治体であり続けることを目指します。この目標を達成するために掲げるテーマは、歳出削減、歳入の増、公共サービスの見直し、公共サービスの提供体制の見直し、施設の活用・あり方の見直し、サービス・質の向上、組織風土の改善の7つを現時点では考えていますが、これで決定ではなく、委員の皆さまからご意見をいただき、修正や新たに設定することもあり得ます。

■ A委員

人口フレームを考へに入れてもらった方がよいと思います。単に人口ではなく、生産年齢人口が減るということは活力がないということ。

公共サービスの見直しも頭に入れて考へていただきたい。単に削減ではなく、軸足をどこにおいていくのか考へてもらった方がいいと思います。

第二次行財政改革では、人員を削減したが時間外が増えていました。多様な働き方の検討においては、職員にアンケートをしたの一言で終わっています。

■ B委員

骨子はどれも大事であるが、あまり欲張り過ぎずテーマを絞って取り組んではどうかと思います。そしてその考へ方を他のテーマにも波及した方がいいのではないか。

■ 会長

今回のテーマは7つあるが、網羅するのも絞るのも考へ方であると思います。

■ C委員

指針に関して、住民満足度の向上は分かりますが、人口フレーム、危機感を維持することを第一とし、それが住民満足度につながっていくのではないのでしょうか。

選択と集中が大切だと思います。ある意味捨てるものがあるのもいいのではないのでしょうか。合併10周年はちょうどいい区切りではないのでしょうか。

廿日市市のPDCAは良い考へだと思います。市も取り組んできたと思いますが、更に取り組んでいただきたい。どう測るかをPlanで考へておくことが大切だと思います。

墓地管理手数料以外にも未納になっているものがあると思いますが、何割を何割にすることを目指すなど、なるべく数値を入れて測りやすくすべきだと思います。

自分の会社の社員にも色々な人がいて、時間軸、作業軸、成果軸で動く人がいます。今は資本がないので成果軸にシフトしてきていますが、新しい作業には失敗がつきものです。やめない限り失敗ではないので、チャレンジし続けて

ほしいと思います。

■ A委員

内部職員の意識改革が大切だと思います。提案制度がありました。組織は数ではなく人です。職員のやる気を起こさせる工夫をしていただきたい。税金を質の高いサービスに替える。職員の質を高める工夫、人材育成に振り向けるべきだと思います。第二次行財政改革ではアンケートしましたとだけで薄かった。課で競争させて表彰し切磋琢磨するのはどうでしょうか。

■ D委員

持続を可能にする、生産年齢人口を維持するためにはどうしたらいいのかが無かったと思います。例としては企業を誘致するなど。市民が流出することを防ごうというのは分かりますが、外からの流入を考えるのも大事ではないでしょうか。

前回までの取組項目はもうやったからもう出さないのかなど確認をしていただきたいと思います。

● 事務局

今回は 9 項目が未達成でした。次に引き継ぐ項目もあります。終わったからなしではなく、引続き取り組むものもあります。

■ D委員

第二次行財政改革大綱は柱が 3 つありましたが、今回 7 つなのはどうしてですか。

● 事務局

この 7 つは、第二次行財政改革大綱で言うところの 3 つの柱ではなく、その下の基本方針と考えてもらえばよいと思います。樹形図のどこで切り取るかで数は変わってきます。

■ E委員

4 回の会議で 7 つのテーマは、多過ぎると思います。どう継続してモニタリングしていくのが大切だと思います。4 回の委員会ですとまとめるのであれば絞って行きたいと思います。

自分の勤める会社は完全な成果主義で、成果が出ていれば行かなくてもよい。個人が、自分は今どうするべきかを考えて業務を行っています。切り捨てるべきものと、時点的に積極的に取り組むべきものに分けて考えるべきだと思います。

■会長

行革のあり方として、総合計画と表裏一体の関係で支える。その関係、認識を外さないようにしていただきたい。

取組項目の時間のスパンを短期、長期で取り組むべきという区がないのではないかと思います。市長は長期的な展望でと言われていました。短期、長期の配慮をしていただきたい。

●事務局

人口フレームの意見がありました。少子化は総合計画の中でも意識を持たないといけませんが、総合計画は全ての計画を網羅しているものではありません。その中で、人口問題は課題としてありますが、それをテーマとした計画はまだ持っていません。少子化に対して地方でできるものは何なのか。ステージ毎に施策となるもの。行革の中に反映していくことは難しいと思います。人口減には、社会減や自然減などを含んでいますので、ここに書き込んでいくことは難しい。持続して維持していくことが大切ですので、最初の書き込みで意識していきたい。人材育成については、第二次行財政改革に書いてあるものは少ないが、実際にはいろいろやっています。

■B委員

例えばどう提案させてもらえばよいのでしょうか。現場の声、こういうことを考えているということをシートに書いてもらえるとよいと思います。我々は現場にいないので分からないので、その方がリアリティがあるのではないのでしょうか。

●事務局

行革で現場の声を拾う仕組みはありませんが、予算要求のヒアリングで現場の困っていることを聞くことはあります。

■A委員

テーマはあまり意識しなくてよいと思います。

■会長

先ほど話に出た経営感覚やモニタリングについて聞かせていただきたいと思います。

■E委員

計画づくりが終わってからも干渉していかなければならないと思います。何

をしたら最終的に住民満足度の向上につながるのか。逆に、組み立てられないものを目標にはしません。

■会長

墓地管理手数料のコンビニ収納の取組みが出てきた経過はどういったものなんでしょうか。また、これまでの行革の取組みについて各課に情報提供した方が横への広がりができるのではないかと思います。

■C委員

3Sといって、整理、整頓、清掃というのがあります。整理は要らないものを分ける。整頓は残ったものを分かりやすく。整理が一番難しい。現場では必要だと思っているからこれができない。トップダウンでないとできないことがあると思うので、それも考えに入れてほしいと思います。捨てることに取り組むのもよいのではないのでしょうか。

■D委員

人が減っていくのに、やることが増えていくので、なかなか難しいと思いました。

■A委員

アウトソーシングと絡めて、「新しい時代の公」というのがあります。行政がやるほうがよいが、NPOが育ってきたりして、本来地域にやってもらった方がよいものについても考えていただきたい。

●事務局

地区みらい会議という地域の仕組みづくりに取り組んでおり、来年4月に24小学校区で立ち上がる予定です。小俣は2校区で1つなので23となります。理想形にはなかなか行かないが、将来的にはと考えているところです。

■会長

本日は、多岐にわたる意見があったので、この意見を事務局の方でまとめていただきたい。事務局から提案のあった全体像に、本日の意見、議論を加え、指針の素案にまとめていただき、次回の会議では素案をもとに議論をしていきたいと思います。

●事務局

本日の会議を閉会します。ありがとうございました。